

若手技術者の経験値アップ！ケーソン製作現場の見学会を開催しました。

平成31年2月13日（水）、敦賀港において、若手技術者が建設現場に触れ、ケーソン製作工事の一連の流れを理解することを目的とした現場見学会を開催しました。

敦賀港では鞠山南地区岸壁（水深14m）延伸に用いるケーソン（2,137t / 函）の製作工事を実施しています。ケーソンとは、重力式の防波堤や岸壁をつくる際に使われる鉄筋コンクリート製の箱のことで、港湾整備においては一般的な構造物で敦賀港の整備にもたくさん用いられています。（参考HP：<http://www.tsuruga.pa.hrr.mlit.go.jp/4/163/>）

港湾整備に携わる技術者として一度は製作現場を見ておくべきですが、工事担当者でない限り、製作現場を見る機会は意外と多くはありません。敦賀港で製作現場を見ることが出来る良い機会なので、当事務所だけでなく、管内他事務所や福井県にも声をかけたところ、当事務所、金沢港湾・空港整備事務所、福井県の職員ら計15名が参加することとなりました。

見学会では、最初に座学でケーソン製作の手順を確認したあと、現場に出てコンクリート打設や鉄筋組立の作業を見学しました。

参加者した若手技術者からは「ケーソン製作の現場を見るのは初めてで良い経験になった」や「こんなに大きなケーソンを、FDと一緒に沈めて浮上させるとは驚き」などの声がありました。この経験が今後の業務に役立つことを期待します。



最初に座学で一連の流れを学びます。



鉄筋組立状況の見学



コンクリート打設を間近で見学！



見学会終了後に記念撮影。お疲れ様でした！